

2021 年度 電気電子情報工学実験 II (b)  
実践的・競技プログラミング 練習コンテスト (Contest 2-1)  
解説

廣田悠輔  
y-hirota@u-fukui.ac.jp

2021 年 6 月 3 日

## 目次

1	問題 X : 簡単な制約付き整数方程式	1
2	問題 Y : フクイ国の両替	4

## 1 問題 X : 簡単な制約付き整数方程式

### 解説

変数は  $A, B, C, D$  の 4 個しかなく, それらの取りうる値はいずれも  $-M, -M+1, \dots, M$  に限定される. したがって,  $A, B, C, D$  取りうる値の組み合わせの数は

$$(2M+1)^4$$

である. 例えば,  $M=1$  のとき, 取りうる値の組み合わせは

- $A = -1, B = -1, C = -1, D = -1$
- $A = -1, B = -1, C = -1, D = 0$
- $A = -1, B = -1, C = -1, D = 1$
- $A = -1, B = -1, C = 0, D = -1$
- $A = -1, B = -1, C = 0, D = 0$
- $A = -1, B = -1, C = 0, D = 1$
- $A = -1, B = 0, C = -1, D = -1$
- $\vdots$
- $A = 1, B = 1, C = 0, D = 1$
- $A = 1, B = 1, C = 1, D = -1$
- $A = 1, B = 1, C = 1, D = 0$

- $A = 1, B = 1, C = 1, D = 1$

の 81 通りとなる。制約

$$1 \leq M \leq 10$$

が与えられているので、 $A, B, C, D$  取りうる値の組み合わせの数は最大でも  $21^4 (= 194481)$  でしかない。したがって、すべての組み合わせについて方程式の変数に値を代入して等式が成り立つかどうかを調べ、成り立つケースを数え上げれば良い。

すべての組み合わせを網羅する簡単な方法には

- 四重ループにより各変数がとりうる値を網羅する方法,
- 再帰による深さ優先探索

がある。いずれを使っても良い。ただし、前者のような他重ループによる網羅は本問題のように変数が高々数個に固定されている場合には容易に使用できるが、例えば数十個の変数を持つ場合や、変数の数が入力依存である場合には使用困難であることに注意せよ。そのような場合には、深さ優先探索を使用することになる。

回答例 (4 重ループ)

```
1 #include <stdio.h>
2
3 int n_solutions(int n, int m) {
4     int a, b, c, d;
5     int count = 0;
6     for (a = -m; a <= m; ++a) {
7         for (b = -m; b <= m; ++b) {
8             for (c = -m; c <= m; ++c) {
9                 for (d = -m; d <= m; ++d) {
10                    if (a * b + c * d * 2 + 1 == n) {
11                        count++;
12                    }
13                }
14            }
15        }
16    }
17    return count;
18 }
19
20 int main(void) {
21     int n, m;
22     scanf("%d", &n);
23     scanf("%d", &m);
```

```
24
25     printf("%d\n", n_solutions(n, m));
26
27     return 0;
28 }
```

回答例 (再帰)

```
1 #include <stdio.h>
2
3 int n_solutions_recursive(int n, int m, int *x, int depth) {
4     int counter = 0;
5
6     if (depth == 4) {
7         if (x[0] * x[1] + x[2] * x[3] * 2 + 1 == n) {
8             return 1;
9         } else {
10            return 0;
11        }
12    }
13
14    for (x[depth] = -m; x[depth] <= m; ++x[depth]) {
15        counter += n_solutions_recursive(n, m, x, depth + 1);
16    }
17    return counter;
18 }
19
20 int main(void) {
21     int n, m;
22     int x[4];
23     scanf("%d", &n);
24     scanf("%d", &m);
25
26     printf("%d\n", n_solutions_recursive(n, m, x, 0));
27
28     return 0;
29 }
```

## 2 問題 Y : フクイ国の両替

### 解説

所持金  $N$  フクをすべてを硬貨の枚数が最小になるように両替したときの、1 フク硬貨、10 フク硬貨、40 フク硬貨、50 フク硬貨、200 フク硬貨の枚数をそれぞれ  $a^{(1)}$ ,  $a^{(10)}$ ,  $a^{(40)}$ ,  $a^{(50)}$ ,  $a^{(200)}$  とおく. このときの 1 フク硬貨の枚数が  $a^{(1)} \geq 10$  であると仮定する. すると, 別の硬貨の組み合わせ「1 フク硬貨  $a^{(1)} - 10$  枚, 10 フク硬貨  $a^{(10)} + 1$  枚, 40 フク硬貨, 50 フク硬貨, 200 フク硬貨がそれぞれ  $a^{(40)}$  枚,  $a^{(50)}$  枚,  $a^{(200)}$  枚」は, その合計金額が  $N$  フクかつ硬貨合計枚数が元の両替の合計枚数より少なくなる. このことは, 元の両替の硬貨合計枚数が最小であることに矛盾する. よって,  $a^{(1)} \leq 9$  である. 同様の議論により, 10 フク硬貨, 40 フク硬貨, 50 フク硬貨の枚数について  $a^{(10)} \leq 3$ ,  $a^{(40)} \leq 4$ ,  $a^{(50)} \leq 3$  が成り立つ. 一方, 硬貨の合計金額が  $N$  フクを超えないようにするため  $200a^{(200)} \leq N$ . したがって, 硬貨の合計枚数が最小になる両替を行ったときの各硬貨の枚数は以下の条件を満たす.

$$\begin{aligned} 0 \leq a^{(1)} \leq 9, \quad 0 \leq a^{(10)} \leq 3, \quad 0 \leq a^{(40)} \leq 4, \\ 0 \leq a^{(50)} \leq 3, \quad 0 \leq a^{(200)} \leq \lfloor N/200 \rfloor. \end{aligned} \quad (1)$$

ただし,  $\lfloor a \rfloor$  は  $a$  以下の最大の整数 ( $a$  の床関数値) である. 本問題では  $N$  は最大で  $10^7$  であるので, このような範囲の  $a^{(1)}$ ,  $a^{(10)}$ ,  $a^{(40)}$ ,  $a^{(50)}$ ,  $a^{(200)}$  の組み合わせの数は最大  $4N = 4 \times 10^7$  である. したがって, (1) の範囲を全探索する五重ループにより, それぞれの組み合わせについて合計金額が  $N$  フクとなるか,  $N$  フクとなる場合に硬貨の合計枚数が何枚になるか調べるプログラムを書けば問題に答えられる.

以下に示す追加の考察を行うことで, 探索すべき範囲をさらに削減することができる.

- 1 フク硬貨以外をどのように組み合わせても 1 フクから 9 フクの金額を作ることはできない. 一方,  $0 \leq a^{(1)} \leq 9$  である. したがって, 硬貨の枚数が最小となる組み合わせにおける 1 フク硬貨の枚数は  $a^{(1)} = N \bmod 10$  と他の硬貨とは独立して決定できる. ただし,  $a \bmod b$  は  $a$  を  $b$  で割った余りである.
- 範囲 (1) のもとで 10 フク硬貨, 40 フク硬貨, 50 フク硬貨のみを組み合わせで作ることができる 200 フク以上の金額は, 200 フク, 210 フク, 220 フク, ..., 340 フクの 15 通りである. これらの金額は, 200 フク硬貨を 1 枚含む組み合わせによって, より少ない硬貨の合計枚数で作ることができる. したがって, 硬貨の枚数が最小となる組み合わせにおける 200 フク硬貨の枚数は  $a^{(200)} = \lfloor N/200 \rfloor$  と他の硬貨とは独立して決定できる.

したがって, 1 フク硬貨, 200 フク硬貨の枚数は上記の方法で独立して決定し, 10 フク硬貨, 40 フク硬貨, 50 フク硬貨の枚数は (1) の範囲を調べる三重ループによって探索することにより,  $O(1)$  の計算量で問題を解くことができる.

### コメント

日本で流通する硬貨 (1 円, 5 円, 10 円, 50 円, 100 円および 500 円) の場合には貪欲法 (高額硬貨から順にできるだけ多く割り当てる方法) による両替が最小硬貨枚数となるが, フクイ国の硬貨の場合にはそうならない. 例えば入力 2 のように  $N = 485$  のとき, 高額硬貨から順にできるだけ多く両替すると,

$$485 = 200 \times 2 + 50 \times 1 + 10 \times 3 + 1 \times 5$$

と 11 枚の硬貨が必要となる。一方

$$485 = 200 \times 2 + 40 \times 2 + 1 \times 5$$

と 50 フク硬貨を使わずに 40 フク硬貨を使った場合、硬貨の合計枚数は 8 枚となる（これは最小値である）。余裕があれば、どのような条件の下で貪欲法が最小硬貨枚数を与えるか考えられたい。

#### 回答例

```
1 #include <stdio.h>
2
3 int main(void) {
4     int n, rest;
5     int sum;
6     int min_10_40_50;
7     int i, j, k;
8
9     scanf("%d", &n);
10
11     sum = n / 200; // 200-Fuku coin
12     rest = n % 200;
13
14     min_10_40_50 = 9999; // Huge value
15     for (i = 0; i <= 3; i++) { // Num. 10-Fuku
16         for (j = 0; j <= 4; j++) { // Num. 40-Fuku
17             for (k = 0; k <= 3; k++) { // Num. 50-Fuku
18                 if (i * 10 + j * 40 + k * 50 == (rest / 10) * 10) {
19                     if (i + j + k < min_10_40_50) {
20                         min_10_40_50 = i + j + k;
21                     }
22                 }
23             }
24         }
25     }
26     sum += min_10_40_50;
27
28     rest %= 10;
29     sum += rest; // 1-Fuku coin
30
31     printf("%d\n", sum);
32
33     return 0;
```

